

インフォメーション・コーナー

会員の皆様へ 平成 24 年度会費の請求について

会員管理システムの都合により、請求書の発行が遅れております。間もなくお届けいたしますので、お早目の納入をお願い申し上げます。

なお、請求書がお手元に届いてから、昨年度末退会にできないかとのお問合せを時々いただきます。

当学会の事業年度は、「4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終わる」と定款にも記しておりますので、請求書が未発行であっても、新年度に入ればその年度の会費をお支払いいただくことになります。

当学会ホームページには会員に関するルールを掲載しておりますので、詳細については下記 URL にアクセスの上、ご確認ください。

<http://www.jsidre.or.jp/guide/nyukai.htm>

会 告

○公益社団法人農業農村工学会第 45 回定時総会の報告	90
○平成 24 年度名誉会員の推挙	91
○第 23 期理事役職者の選任および会務分担について	91
○研究部会長の交代について	92
○「資格試験のための農業農村工学必携」刊行のお知らせ	92
○平成 25 年度農業農村工学会賞候補の推薦について（再） 締切 10 月 31 日	92
○サマーセミナー 2012 参加者募集！（第 2 報） 9 月 21, 22 日開催	93
○第 36 回水の週間「ウォーターフェア'12 東京」農業用水の展示出展について（再） 8 月 3～5 日開催	94
○平成 24 年度 JABEE 農学系分野審査講習会への参加のお願い（再） 申請締切 7 月 20 日	94
○平成 24 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について（再） 申請締切 9 月 14 日	94
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	95
○農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い	95
○CPD 研鑽記録提出に当たり Web システム利用を！（再）	96
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	96
○論文集の電子投稿・査読システムの運用を開始しました（再）	97
○平成 25 年の表紙写真の募集 夏季締切 9 月 30 日	97
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	98
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い	98
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2012 年 1 月から 2014 年 12 月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ	99
○平成 24 年度東北支部総会・第 55 回東北支部研究発表会ならびに第 45 回東北支部研修会・ 第 35 回地方講習会の開催について（第 2 報） 発表申込締切 8 月 31 日	99
○第 63 回関東支部大会講演会・講習会（シンポジウム）の開催について（第 2 報） 講演申込締切 7 月 27 日	100
○九州支部第 93 回講演会・ポスターセッション 第 35 回講習会・シンポジウム・現地見学会の開催について（第 1 報） 11 月 1, 2 日開催	101
○第 49 回畑地かんがい研究集会の開催について（第 1 報） 10 月 18, 19 日開催	102
○第 36 回水の週間シンポジウムの開催について 参加申込締切 7 月 26 日	102
学会記事	104

第80巻第8号予定

展望：アフリカにおける農業農村開発の一層の進展に向けて：熊代輝義

小特集：アフリカにおける農業・農村整備の現状と課題—TICAD Iからの20年—

- ①アフリカ乾燥地における農業の現状・課題と解決への展開：高橋 悟ほか
- ②サブサハラアフリカ稲作水管理研究の意義および現状と課題：山岡和純
- ③アフリカのサバンナにおける灌漑農業の展開と課題：新保義剛
- ④ガーナ灌漑開発公社管轄下の灌漑地の運営状況：岡 直子ほか
- ⑤サヘル地域のトゥジンビエ栽培地での土壌侵食防止対策：宮崎 良ほか
- ⑥エチオピアにおける洪水かんがいシステムの重要性と課題：藤本直也ほか

技術リポート

北海道支部：寒冷地の破損を考慮した舗装の路面性状測定：久保裕一ほか

関東支部：東日本大震災による液状化水田におけるパイプライン被害：大塚秀樹

京都支部：水田での湛水深の自動計測を可能にする水位計の開発：横井久善

中国四国支部：湧水によるため池堤体崩壊の対策：松尾 健ほか

九州支部：基幹水利施設ストックマネジメント事業での導水路対策工事：小林康二

小講座：TICAD, CARD, CAADP（アフリカ農業・農村開発フレームワーク）：山岡和純

私のビジョン：日本と世界、環境保全型農業と農業教育のTPO：丸居 篤

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

のマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成24年9月 6, 7日	農村計画研究部会	第34回現地研修集会	悠久の歴史を紡ぎ未来に繋ぐ農山漁村 —美ら島・美ら海を巡る宝物語—	那覇市 ほか	80巻4,6号
平成24年9月 18~20日	大会運営委員会	平成24年度農業農村工学会大会講演会	—	札幌市	79巻12号 80巻1,3号
平成24年10月 17日	関東支部	第63回支部大会講演会・講習会（シン ポジウム）	—	さいたま 市	80巻6,7号
平成24年10月 18, 19日	畑地整備研究部会	第49回畑地かんがい研究集会	自然再生エネルギーを活用し た畑地農業振興	京都市	80巻7号
平成24年10月 25, 26日	東北支部	平成24年度総会・第55回研究発表会・ 第45回研修会・第35回地方講習会	—	秋田市	80巻6,7号
平成24年11月 1, 2日	中国四国支部	第67回支部講演会・第36回地方講習会	—	岡山市	80巻5号
平成24年11月 1, 2日	九州支部	第93回講演会・ポスターセッション・第 35回講習会・シンポジウム・現地見学会	—	長崎市	80巻7号
平成24年11月 8日	資源循環研究部会	平成24年度研究発表会	資源循環技術を活用した強い 地域づくりを目指して	東京都	80巻6号
平成24年11月 20, 21日	農地保全研究部会	第33回研究集会	東日本大震災に伴う津波被 害・対策とその後（仮）	仙台市	80巻6号
平成24年11月 21日	京都支部	第69回研究発表会	—	新潟市	80巻4,6号

公益社団法人農業農村工学会第45回定時総会の報告

第45回定時総会を開催したので報告します。

小前隆美専務理事，佐々木清貴監事

1. 日 時 平成24年5月25日（金）14：00～15：00
2. 場 所 農業土木会館2階会議室
3. 代議員現在数および定足数 現在数102名 定足数51名
4. 出席代議員数 83名（内，出席 9名，書面により議決権を行使した代議員 32名，委任状により議決権を代理行使した代議員 42名）
5. 定足数の確認等
総務部長が，定款第21条に基づき定足数の充足による本定時総会の成立を確認した。
6. 出席役員 河地利彦会長，中條康朗副会長，

7. 議長の選出
河地会長が仮議長となり，全員一致で小泉 健代議員を議長に選出した。
8. 議事録署名人の選出
議長が議事録署名人2名の選出について諮ったところ，猪迫耕二，湯浅真介の両代議員を全員一致で選出した。
9. 議 事
決議事項
(1) 議案1 平成23年度事業報告
専務理事から同議案について，東日本大震災への対応

等いくつかのトピックスを詳しく紹介した後、事業計画に基づき事業を実施した旨の説明があった。審議の結果、提示案どおり、全員一致で可決した。

(2) 議案 2 平成 23 年度決算

専務理事から同議案について、財務諸表をもとに公 1 会計、公 2 会計および法人会計についての説明があった。審議の結果、提示案どおり、全員一致で可決した。

(3) 議案 3 名誉会員の推挙

専務理事から同議案について、21 名の方の名誉会員推挙の説明があった。審議の結果、提示案どおり、全員一致で可決した。

(4) 議案 4 役員の選任

第 22 期役員の任期満了に伴い、第 23 期役員を選任した。

過半数の票を得た候補者の中から得票数の多い順に以下の役員を選任した。

理事 梶野和人、石黒 覚、石黒宗秀、内田一徳、
工藤 明、久野格彦、小前隆美、塩沢 昌、
高橋順二、高見浩三、中條康朗、中村好男、
西野一秀、春山成子、平松和昭、細川吉晴、
松本伸介、溝口 勝、溝田大助、森井俊広

監事 佐々木清貴、八丁信正

報告事項

(1) 報告 1 平成 24 年度事業計画について

専務理事から平成 24 年度事業計画について説明があった。

(2) 報告 2 平成 24 年度予算について

専務理事から平成 24 年度予算について説明があった。

平成 24 年度名誉会員の推挙

第 45 回定時総会の議により、「名誉会員の推挙に関する内規」に則って第 222 回理事会で推挙された次の正会員（敬称略）を名誉会員に推挙した。これにより名誉会員の現在数は、237 名となった。

今井敏行、岩渕卓惣、小山 徹、勝俣 昇、加藤 治、
黒川義孝、後藤祐一郎、坂上成永、佐藤全良、杉山博信、
須藤芳郎、高岡 宏、高橋堅造、高橋 強、田中雅史、
根守俊和、原 秀夫、舟木 榮、堀江實信、松田誠祐、
米谷 昭

第 23 期理事役職者の選任および会務分担について

平成 24 年 5 月 25 日開催の第 224 回理事会において、理事の互選（定款第 27 条第 2 項）により会長、副会長、専務理事を選出したほか、第 23 期理事の会務分担および常置委員会委員長等を次のように決めた。

記

1. 会長等

会 長 塩沢 昌
副 会 長 中條康朗
副 会 長 内田一徳
副 会 長 久野格彦
専務理事 小前隆美

2. 理事の担当部門

〔担当部門〕	〔総括する副会長〕	〔担当理事〕
企画・運営業務	中條康朗	高橋順二、高見浩三 春山成子、平松和昭 溝田大助、森井俊広
学会誌等定期刊行活動	内田一徳	高見浩三、春山成子 平松和昭、溝口 勝 石黒宗秀、工藤 明 中村好男、石黒 覚 松本伸介、細川吉晴
講演会等行事活動	久野格彦	梶野和人、高橋順二

調査・研究活動	内田一徳	西野一秀、平松和昭 溝田大助
編集・出版活動	久野格彦	高橋順二、平松和昭 溝口 勝、森井俊広 梶野和人、高見浩三 春山成子、溝田大助
国際活動	内田一徳	西野一秀、溝口 勝 森井俊広
技術者教育活動	中條康朗	梶野和人、高橋順二 高見浩三、西野一秀 溝田大助、森井俊広
支部業務	中條康朗	内田一徳、久野格彦 石黒宗秀、工藤 明 中村好男、石黒 覚 松本伸介、細川吉晴

3. 第 23 期常置委員会委員長等

企画委員会	高橋順二
広報委員会	春山成子
学術基金運営委員会	中條康朗
定期刊行物委員会	内田一徳
学会誌編集委員会	平松和昭
論文集編集委員会	溝口 勝

PWE 日本委員会	溝口 勝	出版企画委員会	春山成子
行事企画委員会	久野格彦	国際委員会	溝口 勝
研究委員会	森井俊広	JABEE 担当	森井俊広
上野賞選考委員会	平松和昭	スチューデント委員会担当	森井俊広
学会賞選考委員会	内田一徳		

研究部会長の交代について

下記のとおり研究部会長が交代しました。

記

畑地整備研究部会（平成 24 年 4 月 1 日付）

新部会長 川島 茂人（京都大学大学院農学研究科）

前部会長 三浦 健志

農地保全研究部会（平成 24 年 4 月 1 日付）

新部会長 長利 洋（北里大学獣医学部）

前部会長 駒村 正治

水文・水環境研究部会（平成 24 年 4 月 1 日付）

新部会長 高瀬 恵次（石川県立大学生物資源科学部）

前部会長 後藤 章

農村道路研究部会（平成 24 年 4 月 5 日付）

新部会長 北辻 政文（宮城大学食産業学部）

前部会長 緒方 英彦

「資格試験のための農業農村工学必携」刊行のお知らせ

この度、「資格試験のための農業農村工学必携」を刊行しましたので、お知らせいたします。

本書は「改訂七版農業農村工学ハンドブック（平成 22 年発行）」を再編集してコンパクトにまとめたもので、資格試験に挑戦する人にとっては農業農村工学の全容を短時間で確認するテキストとして、また、農業農村工学を学ぶ学生にとっては教科書として利用できるものです。さらに、要所には、資格試験で過去に出された問題を確認テストとして挿入しており、理解度の自己点検も行える内容となっています。

是非ご購入の上、お役立て下さい。

記

書名 資格試験のための農業農村工学必携

編者 公益社団法人 農業農村工学会

発行 平成 24 年 6 月 8 日

体裁 B5 判 約 550 ページ

価格 定価 2,700 円（税込・送料学会負担）

※会員価格の設定はありません。

購入方法

◆賛助会員・公費（官庁や自治体、国公立大学等）での購入

注文書（書式任意）に注文内容、送付先住所、所属、担当者名を記入の上、FAX、E-mail、または郵便にてご注文下さい。

お電話によるご注文は受け付けておりません。

◆個人・法人での購入

ご注文は代金先払いまたは代金引換で承ります。図書発送の送料は当学会で負担します。

①郵便振替

口座番号 00160-8-47993

加入者名 公益社団法人農業農村工学会

払込取扱票の通信欄に注文内容をご記入下さい。

②現金書留

注文書（書式任意）に図書代金を添えてお送り下さい。

③代金引換

注文書（書式任意）を FAX か E-mail でお送り下さい。

別途代引手数料がかかりますのでご了承願います。

◆申込先

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 農業土木会館 3 階

公益社団法人 農業農村工学会事務局

FAX 03-3435-8494 E-mail: suido@jsidre.or.jp

平成 25 年度農業農村工学会賞候補の推薦について（再）

平成 25 年度の農業農村工学会賞（上野賞、沢田賞を除く）を、募集要項に則って、推薦書によりご推薦下さい。

締切は、平成 24 年 10 月末日です。推薦書様式および、授賞規程は学会 HP をご参照下さい。

平成 25 年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種類	学術賞	奨励賞		優秀賞		
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の技術業績	農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の単独の技術業績	農業農村工学に関する単独の技術リポート業績
		農業農村工学に関する研究業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の技術業績	農業農村工学に関する単独の研究業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の単独の技術業績	農業農村工学に関する単独の技術リポート業績
賞の対象範囲および期間	平成 19 年 10 月から平成 24 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成 21 年 10 月から平成 24 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成 21 年 10 月から平成 24 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成 23 年 10 月から平成 24 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。	平成 22 年 10 月から平成 24 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書から選ぶ。	平成 19 年 10 月から平成 24 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された技術リポート
受賞候補者	個人			個人または組織・団体		
推薦の方法	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。			正会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。		

賞の種類	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をなしたと認められる業績	農業農村工学教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行いもしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く紹介、あるいは研究分析の業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術・技術についての、国際的な交流・調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介した優れたパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大な功労のあったと認められる者
賞の対象範囲および期間	平成 14 年 10 月から平成 24 年 9 月までに出版されている一般の図書。ただし、ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあたっては全面改訂したものののみを対象とする。	平成 14 年 10 月から平成 24 年 9 月までに本学会の刊行物または、関係する図書に発表されたもの。また、完工した建設物、維持保全管理活動等も対象とする。	平成 22 年 10 月から平成 24 年 9 月までに本学会の刊行物または、関係する図書に発表されたもの。また、完工した建設物、維持保全管理活動等も対象とする。	平成 19 年 10 月から平成 24 年 9 月までの業績を対象とする。	平成 19 年 10 月から平成 24 年 9 月までの活動を対象とする。	平成 19 年 10 月から平成 24 年 9 月までの活動を対象とする。	平成 22 年 10 月から平成 24 年 9 月までに発表された、農業農村工学に関連した作品を対象とする。	平成 24 年度末に 65 歳以上に達している個人
受賞候補者	著者	個人または組織・団体				個人	個人または組織・団体	個人
推薦の方法	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構 CPD 運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。

選考の方法	学会賞選考委員会において行う
賞の決定	理事会において行う
表彰	平成 25 年度農業農村工学会大会講演会時に会長が授与する
推薦締切	平成 24 年 10 月末日
提出先	〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛

サマーセミナー 2012 参加者募集！（第 2 報）

2012 年度テーマ「温故知新～寒冷地農業の克服から見る農業土木の今・未来～」

こんにちは。農業農村工学サマーセミナー実行委員会です。
今年も農業農村工学を学ぶ学生を対象に、サマーセミナーを開催いたします。このサマーセミナーは今回で 15 回目となる学生・院生自主企画のセミナーで、さまざまな大学から多くの学生が参加しています。

今回はテーマに「温故知新～寒冷地農業の克服から見る農業土木の今・未来～」を掲げています。寒冷地における農業土木をキーワードに、農業農村工学の歴史を学び、実際に広大な農地を見学した上で、これからの農業土木のあり方を考えていきます。異なる大学、多様な研究テーマでありながらも、同じ農業農村工学を学ぶ学生として、一緒に議論してみませんか？

皆様のご参加をお待ちしております！

1. 主 催

農業農村工学サマーセミナー実行委員会

- ・有光加理（東京大学大学院農学生命科学研究科）
- ・及川 拓（北海道大学大学院農学院）
- ・櫻木宏明（北海道大学大学院農学院）
- ・周藤将司（鳥取大学大学院連合農学研究科）
- ・本田裕理（九州大学大学院生物資源環境科学府）

2. 日 時 2012 年 9 月 21 日（金）～22 日（土）

3. 開催地（予定）

北海道札幌市周辺（研修地、宿泊地等は現在検討中）

4. 見学先

（独）土木研究所 寒地土木研究所

URL：http://www.ceri.go.jp/index.html

その他、農業土木関連施設を見学予定

公開予定です。

5. 参加費用（宿泊費等） 12,000 円～13,000 円程度

URL : <https://summersemina2012.hotcom-web.com/>

6. 詳細・参加申込み

7. 問合せ

申込みは以下のホームページからお願いします。詳細を随時

E-mail : summer_seminar2012@yahoo.co.jp

第 36 回水の週間「ウォーターフェア'12 東京」農業用水の展示出展について（再）

農業用水展示実行委員会

国土交通省、東京都、水の週間実行委員会主催「ウォーターフェア'12 東京」は例年同様「水の週間」の一つのイベントとして行われます。今年も「水の展示会」に農業用水部門として、関係団体の協力を得て、農業農村工学会が農業用水展示実行委

員会を組織し、昨年までと同様に展示の準備を進め出展することとなりました。多くの方の来場をお待ちしております。

展示の場所 虹の下水道館（有明水再生センター 5 階）

期 日 平成 24 年 8 月 3 日（金）～5 日（日）（予定）

平成 24 年度 JABEE 農学系分野審査講習会への参加のお願い（再）

技術者教育認定に関する検討委員会

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



JABEE に対する農学関係者の一層の理解と JABEE プログラム修了者を受け入れる側の理解と協力を得るため、本年も農学関係学協会が共同で研修会を開催いたします。多くの皆様の参加を期待しております。

なお、本研修会は JABEE 公認で、研修会の参加修了者は JABEE 審査員候補者として登録され、本審査のオブザーバー参加を経て審査員の資格が得られます。

1. 日 時 平成 24 年 7 月 28 日（土）9：30～17：30

（懇親会 17：30～）

2. 場 所 東京大学弥生講堂

（東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学農学部内）

3. 主 催 農業農村工学会、農学会、森林・自然環境技術者教育会、日本生物工学会

4. 参 加 費 5,000 円（当日、現金で支払い）

5. 懇親会費 2,000 円（当日、現金で支払い）

6. 申込方法

農業農村工学会ホームページ掲載の申込書に必要事項を記入し、E-mail で申し込んで下さい。

7. 申 込 先

農業農村工学会事務局 花塚 あて

E-mail : hanatsuka@jsidre.or.jp

8. 申込締切 平成 24 年 7 月 20 日（金）

9. プログラム

8：30～ 受付開始

9：25～ 9：30 オリエンテーリング

9：30～ 9：40 開会の挨拶

9：40～10：30 JABEE 認定制度の考え方と基本方針の説明

10：30～11：20 JABEE 認定基準の解説

11：20～12：00 社会的背景、技術士制度との関係について（昼食）

13：00～13：50 認定・審査の手順と方法、審査手引きの解説

13：50～14：40 自己点検書の作成について

14：40～15：30 実地審査について（休憩）

15：30～16：10 生物工学関連分野の特徴

16：10～16：40 大学院認定の動きと外国の事情

16：40～17：30 質疑応答

平成 24 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について（再）

研究委員会戦略的研究推進小委員会

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60 万円程度（原則 1 件 20 万円以内）です。

本年度の申請締切は平成 24 年 9 月 14 日（金）です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式（末尾参照）で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長宛に

お申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4. 助成対象」に示すとおりと

する。

2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容（申請の意義、準備の状況、将来の展望など）を検討して、助成金の配布グループと金額を決定します。なお、この決定内容は学会長に報告します。
3. 配布：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先します。
4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。
 - (イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。
 - (ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員（本学会員以外も可）は原

則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。

5. 活動報告：助成金を配布された「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請方法

締切：平成24年9月14日（金）

申込先：戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail：tkiku@jsdre.or.jp

必要記載事項：

- (1) WG名（または部会名） (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名（仮）
- (5) 研究の目的と内容（500字程度）
- (6) 研究資金申請応募先（予定）

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成23年度までに61件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 （社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地で発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「①農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「②学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備

しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーに加わっていただける方は事前に登録をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿（2年ごと更新）に記載して、緊急災害時等の場合に現地調査を行っていただきます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以下のとおりです。

- ① 調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。
- ② 派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。
- ③ 調査団の派遣期間は、原則 2～3 日とする。
- ④ 調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する（年度予算限度額 300 万円）。
- ⑤ 調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

- ⑥ 調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局（FAX 03-3435-8494, E-mail: saigai@jsidre.or.jp）までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/>）よりダウンロードして下さい。多数のご登録をお待ちしております。

なお、登録いただいた個人情報、災害対応調査にのみ使用し、適切に取り扱います。

CPD 研鑽記録提出に当たり Web システム利用を！（再）

農業農村工学会技術者継続教育機構では、急激な登録者数の増加による研鑽記録審査量の増加や、CPD を取り巻く社会の利用状況の変化に対応すべく、研鑽記録の提出について「Web システム」を、平成 24 年 2 月下旬より導入しました。

Web システムを利用して研鑽記録をご提出いただければ早期に CPD ポイント取得結果を確認することができ、当該年度内であっても証明書の発行が可能となりますので、是非とも

Web システムをご利用下さいますようお願いいたします。

なお、当面は従来の Excel 形式での「継続教育記録ノート」の提出も受け付けますが、その場合の審査結果は従来どおり「8 月送付」となります。

詳細については、技術者継続教育機構のホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/cpd/>）をご覧下さい。

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

行事企画委員会

技術者継続教育機構 CPD 運営委員会通信教育部会

行事企画委員会では、技術者継続教育機構の個人登録者となっている学会員が、CPD 単位取得を在宅で手軽に取得する方法として、平成 17 年 10 月号より学会誌上を通じて「CPD 通信教育」を実施しています。これまでの実績として、毎回 80% 以上の解答者が 2 CPD ポイントを取得しており、自己学習での年間最大 10 CPD ポイントとは別に、通信教育分として年間最大 24 CPD ポイントを取得するチャンスとなっています。是非、通信教育へご解答をお寄せ下さい。

なお、3 月号で「今後は Web 画面上のみで受付」と周知いたしましたが、2013 年（Vol.81）2 月号の解答受付分までは従来の Excel ファイルでの解答も受け付けさせていただきます。

1. 解答資格

解答ができる資格としては、農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者に限ります。学会へのご入会および技術者継続教育機構の CPD 個人登録をされていない方は、まず農業農村工学会のホームページから入会申込書をダウンロードし入会手続きを行い、農業農村工学会員番号を取得された後、技術者継続教育機構の Web 画面上から新規登録手続きを行って下さい。

2. 出題方法

出題は 3 カ月前に発行された学会誌の報文等の事実的な内容から、CPD 運営委員会通信教育部会が作成し学会誌上に掲載します。問題は択一式で、毎回 10 問を出題します。

3. Web 利用登録と解答方法

Web で解答をするためには Web 画面上で「Web 利用登録」をして下さい。（Web 画面上で解答ができるようになるまでには、登録に約 1 週間程度を要します。）「Web 利用登録」をされた約 1 週間後に、Web 画面上で解答画面にアクセスし、正解と思う番号を入力し、送信して下さい。

4. 解答期限

解答期限は「問題掲載月号の翌月末日まで」です。期限を過ぎた解答の受け付けは一切できませんので、十分ご注意下さい。なお、解答期限内であれば、Web 画面上で何度でも解答を訂正し送信することができますが、その場合は解答期限日の直前に送信をした解答が有効となります。

5. CPD ポイントの採点と取得結果の照会可能時期、およびポイント集計年度区分

採点は解答期限日を過ぎた後に行い、全問正解で 2 CPD ポイント、7～9 問正解で 1.5 CPD ポイントを自動的に登録いたします。取得した CPD ポイントは解答期限日の約 1 カ月後に Web 画面上で確認することができ、CPD 取得証明書の発行が可能です。なお、通信教育における当該年度分 CPD 取得ポイントとは、前年度の 2 月号出題分から当該年度の 1 月号出題分までの 12 カ月に出題された問題への解答に該当します。

*解答は技術者倫理に則り、自らの責任で作成して下さい。

論文集の電子投稿・査読システムの運用を開始しました（再）

論文集編集委員会

論文集編集委員会では、電子投稿・査読システムを平成 24 年 3 月 26 日より運用開始しました。

利用システムは現在世界的に広く普及している ASP (Application Service Provider) の Editorial Manager を利用します。Editorial Manager はすでに水文・水資源学会や地盤工学会で導入されているものと同一のもので日本でも実績があります。

新規投稿は電子投稿・査読システムでの運用となります。ただし、平成 24 年 3 月 25 日までに投稿され審査中のものについては、従来どおりでの運用となります。

「投稿の手引き」(学会ホームページ <http://www.jsidre.or.jp/> に掲載) を熟読の上、ご投稿下さい。

投稿先 URL

<http://www.jsidre.or.jp/publ/ronbun/index.html>

平成 25 年の表紙写真の募集

学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成 25 年発行の学会誌も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。地域の人の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずです。

農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含む景観の美しさを再評価いただいて、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

2. 対象巻号

学会誌第 81 巻 (平成 25 年 1～12 月号)

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで (デジタルカメラの場合は JPEG ファインモードまたは TIFF モードに設定) 撮影して下さい (サイズは六ツ切)。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締 切 夏季 平成 24 年 9 月 30 日

6. 審 査 審査委員会 (編集委員と写真家) で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 81 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成 25 年度大会会場でパネル展示します。

8. 謝 礼

採用作品には規定の賞金 (1 点につき 3 万円) をお支払いします。また、応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History (表紙写真由来)」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History (表紙写真由来)」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用権

採用作品の使用権は公益社団法人農業農村工学会に属します。

11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること (花などの情緒物に埋没しないこと)、また、デジタル画像の場合は表紙に拡大したときにドット崩れしない十分な解像度があること、が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ (フィルム、使用カメラ等)、対象物の固有名称 (固有名詞)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

公益社団法人 農業農村工学会

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

E-mail: suido@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」，「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上，ご投稿下さい。

学会誌 80, 81 巻の小特集のテーマ

小	特	集	テ	ー	マ	要 旨 縮 切 (A4判 1,500字以内)
80 巻	8 号	アフリカにおける農業・農村整備の現状と課題－TICAD Iからの20年－	(仮)			公募終了
	9 号	水土・環境観測の最前線	(仮)			公募終了
	10 号	小特集なし				
	11 号	農業農村整備事業は千差万別，津々浦々	(仮)			公募終了
	12 号	世界の水議論と農業用水	(仮)			7 月 25 日
81 巻	1 号	大規模経営体の育成と農業農村整備事業	(仮)			8 月 24 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても，広く募集しておりますので，学会誌編集委員会あてにお寄せ下さい。なお，小特集テーマが仮題となっているものは，予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は，刷上り4ページとなっておりますので，ご執筆の際には厳守いただきますよう，お願いいたします。

ます。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

公益社団法人 農業農村工学会

農業農村工学会誌編集委員会あて

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail: henshu@jsidre.or.jp

80 巻 12 号テーマ「世界の水議論と農業用水」(仮)

平成 24 年 3 月 12 日(月)～17 日(土)に第 6 回世界水フォーラム(WWF6)がフランス・マルセイユで開催されました。WWF6 では「Time for Solution(水問題を解決する時)」をテーマに掲げ，各国の公的機関や民間企業，国際機関などから関係者が集まり，世界の水問題とその対策について議論されました。

現在，急激な人口増加を背景に水需要が増大しており，限られた水資源をどのように配分・利用するのが課題となっています。また，気候変動による渇水，洪水などの発生も懸念され

ており，その影響の予測と対策が求められます。農業は多量の水資源を利用する分野であり，今後の食料増産の必要性を考慮すれば，水資源の確保，保全に向けた取組みは喫緊の課題と言えます。

本小特集では，「世界の水議論と農業用水」と題し，世界的な水議論の動向について学会員の皆様に情報を提供します。また，農業のための水資源の開発，効率の利用，水利調整などの取組みについての報文を募集します。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)では，機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは，モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文，技術論文が多数掲載されていますので，研究者のみならず，各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

掲載論文の分野は，次のように幅広い内容となっています。

① 灌漑(水配分管理，水収支，灌漑施設，栽培管理)

② 排水(排水管理，排水施設)

③ 土壌保全(土壌改良，土壌物理)

④ 水資源保全(水源開発，水文)

⑤ 水田の多面的機能(洪水調節，地下水涵養など)

⑥ 生態系の保全(水生，陸生動植物の生態系)

⑦ 地域計画(農村計画，土地利用計画など)

⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境，土壌環境，気象環境)

⑨ 水田の多目的利用(田畑転換，施設園芸)

⑩ 農業政策(農村振興，条件不利地の支援策など)

出版社：Springer-Japan 社

発行スケジュール：年 4 回（3，6，9，12 月）

購読料：正会員 12,000 円

学生会員（院生含む）8,500 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込み下さい。

申込先：農業農村工学会編集出版部 中村あて

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2012 年 1 月から 2014 年 12 月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering）の機関誌、国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は、2011 年 6 月末に Vol.10, No.2 が発行されました。

本ジャーナルは 2009 年 12 月より、トムソン・ロイター社の SCIE (Science Citation Index Expanded) に収録されています。わが国においても学術誌の評価に、SCIE の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価を得ております。

また、世界 13 カ国から Editor（23 名）を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年 4 回の発行としております。投稿者は農業農村工学会員で PWE 誌の購読者に限りませんが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2012 年 1 月から 2014 年 12 月までの編集事務局は日本です。

投稿先：オンライン投稿（<http://pawe.edmgr.com/>）をご利用下さい。

編集事務局：Dr. Yoshiyuki SHINOBI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University.

6-10-1 Hakozaki Higashi-Ku, Fukuoka-shi, 812-8581 Fukuoka, Japan

TEL: +81-92-642-2909 FAX: +81-92-642-2914

E-mail: yshinogi@bpes.kyushu-u.ac.jp

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

編集体制

・Editor-in-Chief: Dr. Masaru Mizoguchi (Japan)

Graduate School of Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan

・Editors 13 カ国から 23 名

・Editing Board 35 名

・Managing Editors

Chief Management Editor: Dr. Yoshiyuki SHINOBI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Japan

Dr. Haruhiko HORINO

Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Japan

Dr. Yu-Pin Lin

Dept. of Bioenvironmental Systems, Engineering National Taiwan University, Rep. of China

Dr. CHOI, Jin Yong

Department of Landscape Architecture and Rural System Engineering, Seoul National University, Korea

出版社：Springer-Japan 社

投稿資格：筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。

投稿要領等：<http://pawe.edmgr.com/>に詳細を記載しています。

平成 24 年度東北支部総会・第 55 回東北支部研究発表会 ならびに第 45 回東北支部研修会・第 35 回地方講習会の開催について（第 2 報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期 日 平成 24 年 10 月 25 日（木）、26 日（金）

2. 会 場 秋田ビューホテル

〒010-0001 秋田市中通 2-6-1

☎018-832-1111 FAX 018-833-6957

3. プログラム（予定）

（支部研修会・地方講習会の詳細は、本誌 8 月号掲載予定の「第 3 報」を参照願います。）

<第 1 日目>10 月 25 日（木）

(1) 総会ならびに研究発表会

9:00~9:30 会員受付

9:30~10:15 支部総会

10:15~10:45 支部授賞式

10:45~11:00 休憩

11:00~12:00 特別講演会(公開)

12:00~13:00 昼食・休憩

13:00~17:00 第55回支部研究発表会

(2) 情報交換会

18:00~20:00 会場:秋田ビューホテル

<第2日目>10月26日(金)

(3) 支部研修会・地方講習会

9:00~9:30 受付

9:30~9:40 開会挨拶

9:40~12:00 第45回支部研修会

12:00~13:00 昼食・休憩

13:00~15:20 第35回地方講習会

15:20~15:30 閉会

4. 研究発表および参加申込み

平成24年度の大会全般を秋田県が担当しますが、研究発表会のプログラム編集は秋田県立大学が担当します。

本報では「研究発表申込み」についてご案内し、「参加申込み等」は、本誌8月号掲載予定の「第3報」にてご案内する予定です。

(1) 研究発表申込み・問合せ先

研究発表要旨集原稿に投稿票を添えて、下記にお申込み下さい。

《申込み・問合せ先》

〒010-0444 南秋田郡大潟村字南2-2

秋田県立大学生物資源科学部アグリビジネス学科

永吉武志 または 近藤 正 まで

☎0185-45-3915 (永吉) 0185-45-3918 (近藤)

FAX 0185-45-2377

E-mail: tnaga@akita-pu.ac.jp

(2) 投稿要領

研究発表要旨集原稿・投稿票の書き方については下記の農業農村工学会ホームページを参照して下さい。

<http://www.jsidre.or.jp/newinfo/24shibu/>

(3) 発表時間・発表手段

発表時間は15分以内(発表12分, 質疑3分)

発表補助手段: パソコン, CD-R, USB メモリ使用可

(各会場 PC は, OS Windows, ソフト Power Point 2003 を準備します。)

(4) 研究発表申込み受付期間

平成24年8月10日(金)~31日(金)

【締切厳守】

5. 会場への案内

秋田ビューホテル

(1) JR 秋田駅西口から西へ約0.2 km (徒歩約2分)

(2) 航空機利用の場合, 秋田空港から秋田駅まで連絡バス 約40分

6. 宿泊について

宿泊についての斡旋はいたしませんので, ご了承下さい。

※東北支部大会の最新情報は下記ホームページでお知らせいたしますので, ご活用下さい。

<http://www.jsidre.or.jp/shibu/tohoku/right.html>

第63回関東支部大会講演会・講習会(シンポジウム)の開催について(第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 主催 (社) 農業農村工学会関東支部

後援 農林水産省関東農政局, 埼玉県

2. 支部大会講演会・講習会(シンポジウム)

(1) 日時 平成24年10月17日(水)

・受付 9:30~10:30

・講演会 11:00~15:00 (昼食12:00~13:00)

・講習会(シンポジウム)

15:00~16:20

・授賞式 16:30~17:00

(2) 会場 大宮ソニックシティ

埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5

☎048-647-4111 <http://www.sonic-city.or.jp>

・受付 2階小ホール前

・講演会 2階小ホール, ソニックシティビル9階研修室

・講習会(シンポジウム) 2階小ホール

・授賞式 2階小ホール

(3) 会場への案内

JR 高崎線・東北本線「大宮」駅西口から徒歩5分

※無料駐車場はございませんので, 公共交通機関をご利用下さい。

3. 情報交換会

(1) 日時 平成24年10月17日(水) 17:30~19:30

(2) 会場 ソニックシティビル9階

4. 参加申込方法

(1) 申込み

「第63回農業農村工学会関東支部大会参加申込書」に必要事項を記入し, 所属機関ごとに取りまとめるうえ, E-mail または FAX, 郵送にてお申し込み下さい。

(2) 申込期限 平成24年8月31日(金) 必着

(3) 参加費

・講演会, 講習会(シンポジウム) 2,000円

・情報交換会 5,000円(講演者および学生は2,000円)

(4) 会費の納入方法

参加申込みと同時に全額前納して下さい。なお、キャンセル・変更については、8月31日以前のお申出に限りまして、振込手数料等の実費を差引き返金いたします。

9月1日以降のキャンセルにつきましては応じかねますので、ご了承のほどよろしくお願いいたします。

【留意事項】

振込手数料は、各自にてご負担願います。

【振込先】

埼玉りそな銀行 県庁支店

店番号：104 口座番号：普通 4682696

口座名義：農業農村工学会関東支部大会運営委員会

清水英昭

(ノウギョウノウソンコウガツカイカントウ
シブタイカイウンエイインカイ シミズ
ヒデアキ)

※振込元が申込書と照合できるように、所属・氏名等は必ずご記入願います。

(5) 申込みおよび問合せ先（事務局）

〒330-9301 埼玉県さいたま市浦和区高砂 3-15-1

埼玉県農林部農村整備課（担当：大図，林）

☎048-830-4347（直通） FAX 048-830-4840

E-mail：a4330-01@pref.saitama.lg.jp

(6) 申込様式

申込様式は、埼玉県農林部農村整備課ホームページ上に掲載してありますので、ファイルをダウンロードしてご利用いただくことも可能です。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/k09/>

または、「埼玉県庁 農林部農村整備課」で検索

5. 一般講演発表者申込方法

(1) 申込み

農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>)

の「支部講演会投稿票」の「支部講演会の投稿票につ

第 63 回農業農村工学会関東支部大会参加申込書

所属			電話番号	
申込者氏名			FAX 番号	
E-mail				
所属所在地				
参 加 者 名 お よ び 参 加 費 用				
ふりがな 氏 名	講演会等 ¥2,000- ○×を記載	情報交換会 (一般) ¥5,000- ○×を記載	情報交換会 (学生) ¥2,000- ○×を記載	計
計				¥

いて」に従って必要事項を記載し、4.(5)の事務局あてにメール送信して下さい。受領確認はメールで行いますので、受領ハガキは不要です。

なお、メール送信文に情報交換会への参加の有無についてご記入願います。

(2) 申込期限 平成 24 年 7 月 27 日（金）

(3) 原稿締切 平成 24 年 8 月 31 日（金）

(4) 原稿枚数 2 枚または 4 枚

(5) 申込みおよび問合せ先 4.(5)に同じ

(6) 講演時間 質疑応答を含め 15 分程度

(7) その他 幅広い分野からの応募を歓迎いたします。

講演者で、情報交換会に参加される方は 2,000 円の負担をお願いします。

6. その他

(1) 昼食について

各自、会場周辺の飲食店をご利用下さい。

(2) 宿泊について

運営委員会事務局では、宿泊の斡旋・手配は行いませんので、各自での対応をお願いします。

(3) 詳細は 4.(6)の埼玉県農林部農村整備課ホームページをご確認下さい。

九州支部第 93 回講演会・ポスターセッション
第 35 回講習会・シンポジウム・現地見学会の開催について（第 1 報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期 日

(1) 講演会・ポスターセッション

平成 24 年 11 月 1 日（木）

(2) 講習会・シンポジウム・現地見学会

平成 24 年 11 月 2 日（金）

2. 会 場

長崎新聞文化ホール（アストピア）

〒852-8104 長崎市茂里町 3-1 ☎095-844-2412

3. プログラム、申込方法等

今年度から申込方法を若干変更します。詳細は、下記の講演会ホームページで公開するとともに、第 2 報でお知らせします。なお、講演会への投稿締切は 9 月 10 日（月）厳守でお願いします。

http://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/tasumi/jsidre_kyushu24/

4. 問合せ先

長崎県農林部農村整備課 野口，中島

〒850-8570 長崎市江戸町 2-13

☎095-895-2964 FAX 095-895-2594

第49回 畑地かんがい研究集会の開催について(第1報)

テーマ「自然再生エネルギーを活用した畑地農業振興」

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



本年の畑地かんがい研究集会は、「自然再生エネルギーを活用した畑地農業振興」をメインテーマとして、研究集会ならびに現地研修会を下記のように開催することになりました。

農業農村地域においては、今後ますます自然再生エネルギーを利用することが求められており、太陽光・小水力・バイオマス・風力といったエネルギーの生成技術、およびその利用技術の開発が進められています。本研究集会では、開催地である京都府のご協力を得て、こうした自然再生エネルギーの利用実態を学ぶとともに、今後の方向性や課題について有意義な議論を行いたいと考えております。つきましては、国、地方公共団体、企業、土地改良区などの団体、さらに大学、研究機関などの研究者、技術者、行政官等におかれましては、この研究集会に多数参加されますようご案内申し上げます。

なお、本研究集会は、農業農村工学会畑地整備研究部会と(社)畑地農業振興会の共催で2年に1回開催しているものです。

1. 開催日

研究集会 平成24年10月18日(木)

現地研修会 平成24年10月19日(金)

2. 研究集会

- (1) 会場 京都大学百周年時計台記念館
(京都市左京区吉田本町)
- (2) 日時 平成24年10月18日(木) 10:00~17:30
(予定)
- (3) 課題:「自然再生エネルギーを活用した畑地農業振興」
 - ①新土地改良長期計画における畑地農業と自然再生エネルギー活用
 - ②農業用小水力発電の現状と課題
 - ③農業における太陽光発電の利用
 - ④南丹市からの八木バイオエコロジーセンターに関する報告
 - ⑤京都府のマイクロ水力発電に関する報告
 - ⑥農村地域における総合的な自然再生エネルギーの活用

⑦総合討論

(注) 上記の講演内容は若干変更の可能性があります。

なお、本研究集会は「農業農村工学技術者継続教育プログラム」に申請中です。

- (4) 情報交換会 18:00~19:30 京都大学内(予定)

3. 現地研修会

平成24年10月19日(金) 8:30~17:00(予定)

- ・八木バイオエコロジーセンター(南丹市)、かやぶきの里北村、美山町自然文化村木質バイオマスチップ利用施設、美山芦生の森マイクロ水力発電施設(美山町)
- ・京都駅集合・解散

4. 参加申込み

後日、学会誌、学会ホームページ、畑地農業振興会ホームページに詳細を掲載いたします。

5. 宿泊

各自でご対応をお願いいたします。

なお、10月20日(土)、21日(日)には、京都府などの主催で、京野菜のブランド化に向けた取組みである「京都『九条ネギ』フェスティバル」が京都・梅小路公園で、また、10月22日(月)には京都市内で時代祭・鞍馬の火祭が開催されるため、宿泊施設の混雑が予想されます。参加される方は、早めの宿泊予約をお願いいたします。

6. 各種問合せ先

畑地整備研究部会事務局

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院農学研究科 中村公人

☎075-753-6156 FAX 075-753-6476

E-mail: nakamura@kais.kyoto-u.ac.jp

畑地農業振興会

〒105-0012 東京都港区芝大門1-3-11

☎03-3438-2581 FAX 03-3438-2583

E-mail: hatasin@muji.biglobe.ne.jp

第36回 水の週間シンポジウムの開催について

国土交通省、東京都、水の週間実行委員会では、毎年8月1日を「水の日」とし、水資源の有限性、水の貴重さおよび水資源開発の重要性について国民の皆様方に理解を深めていただく行事の一環として、水の週間シンポジウムを開催いたします。

奮ってご参加下さいますようご案内いたします。

1. 主催 国土交通省、東京都、水の週間実行委員会
2. 日時 2012年7月27日(金) 13:30~16:45
3. 場所 科学技術館 地下2階サイエンスホール

(東京都千代田区北の丸公園2-1)

4. テーマ

「水の恵みを未来に~健全な水循環の再生を目指して~」

5. プログラム

12:30~13:30 受付

13:30~14:00 開会挨拶、全日本中学生水の作文コンクール最優秀賞(披露)

14:00~15:20

第Ⅰ部：復興まちづくりにおける水インフラ（講演）

①東京大学大学院教授 古米弘明

②岩手県大槌町副町長 高橋浩進

③宮城県中南部下水道事務所技術次長 飯坂利弘

15：20～15：30 休憩

15：30～16：30

第Ⅱ部：健全な水循環の再生（講演）

①茨城大学農学部教授 小林 久

②サントリーホールディングス（株） 山田 健

③（独）建築研究所上席研究員 山海敏弘

16：30～16：45 質疑・応答

16：45 閉会挨拶

シンポジウム会場に併設し、水資源功績者パネル、全日本中学生水の作文コンクール優秀作品、フォトコンテスト優秀作品を展示。

6. 参加費 無料

7. 参加申込みおよび連絡先

〒330-6008 埼玉県さいたま市中央区新都心11-2

（独）水資源機構内 水の週間実行委員会事務局

☎048-600-6513 FAX 048-600-6510

E-mail：webmaster@water.go.jp

8. 参加申込要領

7月26日（木）までに氏名（代表者で可）、連絡先、所属機関名、参加人数を記入の上、FAXまたはメールにてお申し込み下さい。

地域環境工学シリーズ7

地域に根づく“開発”とは：国際協力の現場から

— 日本の海外農業農村開発協力 —

農業農村工学会発行

目 次

まえがき

I. 海外農業農村開発協力の必要性

1. 海外の農業農村を取巻く諸問題
2. 農業農村開発協力の展開と課題

II. 日本の海外農業農村開発への取組み

1. 農業生産基盤整備への取組み
2. 環境問題への取組み
3. 農村社会開発
4. 国際的研究・協力

5. 農業分野における国民参加型の開発協力

6. 日本の農業農村開発協力の仕組み

III. これからの国際農業農村開発協力の展望

1. 持続可能な農業農村開発に向けてのアプローチ
2. 協力体制の強化

IV. ANNEX

1. 海外農業農村開発協力に携わる各機関等
2. 国際協力用語解説，入門図書案内

A 5判 約200ページ 定 価3,300円（内税・送料学会負担）
会員特価2,900円（内税・送料学会負担）
〔会員特価は、個人会員による前金購入の場合のみ適用されます〕

申込先 〒105-0004 港区新橋5-34-4
公益社団法人 農業農村工学会
☎03-3436-3418 FAX03-3435-8494

地域環境工学シリーズ9

食の安全と地域の豊かさを求めて

— 新しい畑整備工学 —

農業農村工学会発行

目 次

I. わが国の畑作の歴史と特徴

1. わが国における畑作の歴史
2. 営農形態別の特徴
3. 畑整備の現状
4. 国際情勢，社会情勢の変化
5. 中山間地域における畑整備

II. 畑整備の基礎

1. 作物と水
2. 畑地基盤と畑作農業

3. 畑地の整備手法

III. 畑整備の今後の展開方向

1. 畑整備における技術的課題
2. 新たな畑整備の展開

IV. 畑整備と地域環境管理

1. 土壌侵食防止
2. 持続的農業のための土管理
3. 畑作と環境保全
4. 環境との共存をめざした畑作の将来像

A 5判 約210ページ 定 価3,300円（税込・送料学会負担）
会員特価2,900円（税込・送料学会負担）
〔会員特価は、個人会員による前金購入の場合のみ適用されます〕

申込先 〒105-0004 港区新橋5-34-4
公益社団法人 農業農村工学会
☎03-3436-3418 FAX03-3435-8494